

庄内町保健医療福祉推進委員会議事録

開催日時：平成29年12月5日（火）午後1：30～4：00

場 所：余目保健センター

出席委員：菅原源也、齋藤学、市村正浩、日下部忠明、佐藤昭一、佐藤トク、庄司武晴、齋藤君夫、鎌田剛、水尾良孝、中鉢智幸、鈴木恵子、工藤むつ子、
（欠席）渡曾弘喜

出席職員：池田保健福祉課長、鶴巻主幹、高山課長補佐、鈴木主査兼地域支援係長、長南主査兼介護保険係長、加藤主査兼福祉係長、阿部主査兼子育て応援係長、齊藤健康福祉係長

内容は次の通り

1 開会

2 諮問 保健福祉課長より、水尾良孝委員長へ諮問書を手渡す。

3 委員長あいさつ

3つの計画の諮問を依頼された。短い時間での審議となるが、皆さんの意見をよろしくお願ひしたい。

4 協議

司会：水尾良孝委員長

(1) 健康しょうない21計画策（第3次）策定について

事務局より説明（資料1）

委 員：P13：Cの判定0になっているが、本当になしでいいのか。

事務局：変わらないという項目がなかったなので、なしでよい。

委 員：ロコモやCOPDなど横文字が多すぎる。高齢者にとっては馴染まない
ので違う表現にした方がいいのではないか。

事務局：確かに英語やカタカナ表記が多いが、国の目標もそのように表記されて
おり、町の計画も合わせている状況。日本語に直訳できないものもあり、
知名度を上げていくようにしたい。

委 員：日本語に直すと長くなる。使っているうちにだんだん日本語的になって
くるのではないか。

委員長：同じページの中で、日本語訳を表記するよう配慮した方がいい。

委 員：町農協のしゃんしゃん、商工会のアテンポのような取組みも大事にして
ほしい。

事務局：地域社会と健康分野に記載し、地域支援係と連携していく。

委員：たばこ対策については、町としてもっと強く働きかけてもいいのではないかな。

民生委員の活躍も入れてみてよい。地域社会と健康分野？

サプリメントについての情報が多くなっており、触れないわけにもいかないのではないかな。

事務局：サプリメントは基本的に推奨していない。バランスよくいろいろな物を食べるように指導している。サプリメントには触れずにいきたい。

委員：サプリメントについては一概に悪いものではないと思われるが、主治医に聞いてみる方がよい。

委員：血液の流れ良くする薬を飲んでいて、サプリメント服用したら下血したことがあった。薬とサプリメントとの影響があると言われたことがある。

委員：酒田地区（北庄内）医師会が中心の医療連携推進法人がH30.4月に発足予定である。高度な医療と保健・医療・介護・歯科・薬剤等連携し包括的な支援をしていくことになる。計画の中に入れてもいいのではないかな。

事務局：地元の庄内余目病院が入っていないようだ。具体的な法人名はいれずに、医療との連携という部分で、地域社会と健康分野に入れることはできると思うが。

委員：町民が取り組むことをどう伝えていくか。

事務局：広報やリーフレットの全戸配布を考えている。各事業でリーフレットを使い説明周知していく。

委員：飲食店や食品販売店などでキャンペーンをはることもできるのではないかな。民間との連携図ることもいいと思う。町民が接するところでのPRも重要。

委員：運動習慣の少ない若者へのアプローチをどうしていくか。

事務局：町湯での健康づくり等、平日に開催したりと工夫しているが、なかなか若い人が参加してくれない現状もある。体育館との連携等も強化していきたい。

委員：38ページの評価できない理由は何か。

事務局：町民アンケートの実施がなく、直近の数値がなかったため。

委員：集落公民館の受動喫煙防止対策の目標値が30%となっているが、もっと高く設定するべきではないかな。

事務局：対策がすすまない理由として、「集落の方々の理解が得られない」という意見が一番多かった。もっと踏み込んだ取組みができればいいが、なかなか現実的には難しい。

委員：自分の集落公民館では禁煙となっている。

委員長：これまでの意見を基に、今後修正等あればお知らせしてほしい。

(2) 庄内町高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画策定について

事務局より説明（資料2）

委員：33 ページ1～6 節は目標なし、7～9 節は目標設定されている。統一性がないのではないか。取り組み目標・指標を示すようになっているのでは。

事務局：再度調整していきたい。

委員：36 ページ、山形県地域医療構想で12 件と記載されているがどうか。

事務局：庄内地域でのベット数（病床数）が減少するという意味。表現を変えた方がいいか。（新たに12 人？）

事務局：医療連携推進という点では、庄内地域で周辺の自治体と連携していく。H28 年度からはワーキンググループ会議として、できるところから多職種連携を始めている。

委員：47 ページ、地域包括支援センターの話の中で、民生委員の話があったがどうか。

事務局：民生委員との関わりの中では、学区単位で地域見守り会議を継続してやっていくという意味。

委員：54 ページ、介護人材確保で、事業所から町に対する要請があれば支援策を講じるとあるが、例えばどういった施策が考えられるのか。

事務局：介護人材確保の補助はH27 年度まではやっていたが、H28 年度からは行っていない。事業所から相談あった時に一緒に支援策を検討していく。

委員：移住施策において、移住してきた人が元の居住地で介護の仕事やってきた人がいるかもしれない。

委員：介護職員の雇用関係について、商工会あたりとの連携はないか。

事務局：なし。

委員長：地域支援事業について、H31～H32 年度は大きな伸びとなっているが、どういった理由か。

事務局：住民主体の介護予防事業・一般介護予防事業に力を入れていかなければならない。これまでのデイサービスやヘルパーなど、地域支援事業に移行となるため。

委員長：介護保険料が気になるところだが、給付費の見込みも大きくなっており、保険料は上がるのか。財源確保はどうか。

事務局：1号保険者の基金（8,000 万円程度）を有効に活用していきたい。保険料は上げたくはないが。H28 年度ベース22%、今後23%上がったとして361 円程度のアップにはなるかもしれない。

(3) 障がい者計画（第3期）・障がい福祉計画（第5期）・障がい児福祉計画（第1期）策定について

事務局より説明（資料3）

委員長：障がい児福祉計画がまだ示されていない。早めに資料提示するようにしてほしい。

委員：12ページ、福祉サービスについて、新たなサービスも盛り込むべきではないか。

事務局：県にも確認してみる。

委員：調査結果を聞いていると、総合相談支援センターの充実が求められている。現状の体制はどうか。オフィスになっている？アウトリーチ？

事務局：相談を待っている状況で1人体制。今後社協と協議する予定でいる。アウトリーチが大切であると思う。

委員：1人体制でその都度対応だと大変。アウトリーチでないと予防ができない。プロパーな職員だけでなく、協力員さん等の体制を考えてもいいのではないか。

委員：計画は充実した内容に。あらゆる機関と連携していくように。

委員：福祉サービス十分に届いていないのではないか。自治会長会にサービス内容をお知らせしてほしい。

課長：自治会長会では連絡事項が多く、時間的な制約もあるのでどこまで説明できるか難しいが、検討はしてみる。地区単位の会議でもよいか検討していく。

(4) その他

5 その他

次回1月予定。1／22（月）で調整したい。

日程調整の上、参加をお願いしたい。

6 閉会